

郷中だより

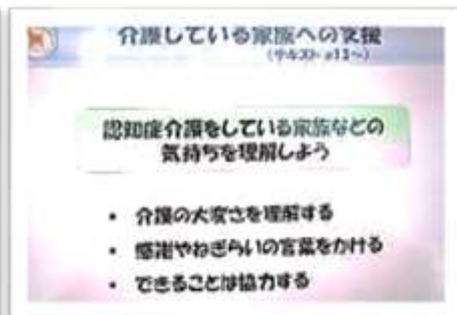
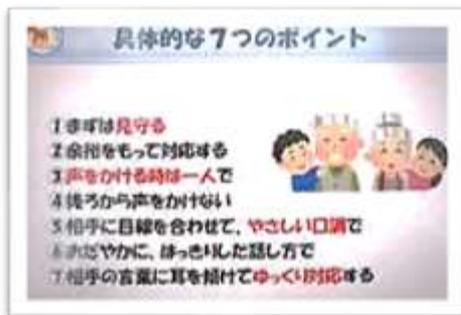


令和4年2月21日
倉敷市立郷内中学校長発行
学校だより 第29号

2月19日(土)は二十四節気(1年を24等分したものに季節の名前をつけたもの)の「雨水」でした。雨水は春の季語でもあり、寒さのピークが過ぎ、降る雪が雨へと変わり、次第に春を感じさせる頃になります。19日は、午前中は雪で午後には雨に変わり、寒い一日でした。きっと、この冬最後の雪だったのでしょう。雨水の頃に雛人形を飾る風習もあるそうです。

認知症サポーター誕生！

2月10日の午後、1, 2年生が「認知症サポーター養成講座」を受講しました。認知症サポーターとは、特別なことをする人ではなく、認知症の人の応援者(サポーター)として、認知症について正しく理解し、認知症の人や家族を温かい目で見守る人のことです。



【生徒の感想】

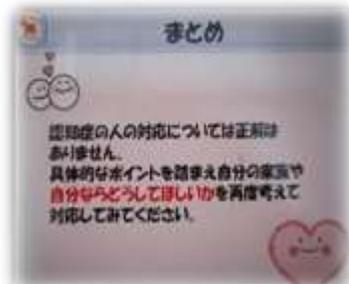
認知症は悪化するものだと思っていたけど、人のかかり方によって、改善されたり進行を遅らせたりできることを知った。これから僕たちは、認知症サポーターなので、認知症の人を見かけたら、自然にお手伝いしていきたいです。

やはりどんなことも人と人のことなので、お互いに理解し合い、相手を尊敬し合うことで良いことになりやすいと感じた。ぼくが将来、認知症の人とおつきあひするときは、今日のことを思い出し、良好な関係を築き、次の世代にもつないでいきたいです。

祖母が認知症で、だいたいのは知っていると思っていたけど、今日の講座で本人が一番辛いという大切なことに気づいていなかったことがわかりました。今後は、表面だけの手助けではなく心のサポートをしていきたいと思います。

認知症の人にどう対応するのがよいかを考えさせられる内容でした。今までなら「それは違う」「そうじゃなくて…」と認知症の方に教えてあげるのが思いやりだと思っていたのですが、本当に相手を思いやるなら、相手の行動に寄り添った対応をすべきだと思いました。

ドラマなどでは認知症を知っていたけど、接し方などによって進行を遅くできることを知った。身近な人や自分になるかもしれないから、もっと知りたいと思ったし、世の中の人みんなが認知症について知っておいた方がよいと思った。



(裏面に続く)

倉敷帆布さんのご協力で

2年生の立志の記念に、倉敷帆布さんのご協力で「オリジナルトートバッグ作り」を体験することができました。良質な倉敷帆布に世界にひとつしかないデザインを考え、完成していく様子はとても楽しそうでした。立志のよい記念になり2年生も大喜びでした。



倉敷帆布さんは、いつも地域の子どもたちを気にかけてくださり、たいへんお世話になっています。感染症が流行し始めマスクが手に入りにくくなった2年前にも、帆布をたくさんいただきました。そのおかげで、生徒全員にマスクを準備することができ、たいへん助かりました。今年度も「2年生の思い出になるのなら」と、急なお願いだったにもかかわらず、ご協力をしてくださり、心から感謝しております。

【生徒のお礼の手紙より】

先日は私たちの立志記念にトートバッグ作りを体験させてくださり、ありがとうございます。みんなで「あれが良い、これが良い」と悩んで、とても良いものが作れました。みんなの作品を見ても、とても個性的でかわいらしいものができました。何より作っている時、みんな楽しそうで、本当に心に残る良い思い出になりました。私たちもう1年たつと、15歳で大人へと近づいていきます。これからの将来を担うひとりの人として、社会に役立つ人間になっていきたいと思えます。その時には、今回作ったトートバッグを見て、14歳の頃の自分を思い出し、頑張っていきたいと思えます。コロナ禍で不安になっていたこともあり、とても楽しめました。貴重な体験をありがとうございました。

先日は、オリジナルトートバッグを作る機会をいただき、ありがとうございます。僕は、作る前は、何も(模様を)つけない方が良く思っていたのですが、やっていくうちに作るのが楽しくなってきました。今回の活動は、とても良い思い出になりました。ぼくたちが住んでいる郷内に、すばらしい会社があるのは、とてもすごいことだと思います。今回作った作品は大切に扱おうと思えます。本当にありがとうございます。

トートバッグをありがとうございました。自分のオリジナルバッグを楽しくつくることができました。私は、物を作ることが好きなので、今回、バッグ作りができてとてもうれしかったです。オリジナルバッグを作るのは初めてだったので、どんなデザインにしようかととても迷いました。でも、迷っている時間も楽しいなと感じながら作業をしていました。すてきな時間とこのような機会をくださり、本当にありがとうございました。